

三厩ウスメバル放流種苗作出試験

長内万葉・高橋拓実

目 的

流れ藻に付随して陸奥湾内へ移動してきたウスメバル稚魚を採集し、放流適サイズまで中間育成して放流用種苗の作出を行うことで、種苗放流による資源造成を図る。

材料と方法

1. ウスメバル稚魚の採集

2022年5月12日から6月1日に、陸奥湾内の青森市奥内地区及び後潟地区のホタテガイ養殖施設54箇所に設置したホンダワラ海藻トラップに集まったウスメバル稚魚をタモ網で採集した。稚魚の採集はトラップに使用したホンダワラが流失するまでの間に、奥内地区で8回、後潟地区で4回の合計12回行った。採集したウスメバル稚魚は一時的に、青森市水産振興センターの陸上水槽に収容した。

2. 放流用種苗の育成

2022年6月2日及び6月16日の2回に分けて、青森市水産振興センターから当研究所へ運搬し、運搬したウスメバル稚魚は八角形型10トン水槽1面に収容し、中間育成を開始した。餌は中間育成初期には冷凍コペポダを給餌し、口径が大きくなってきたら配合飼料も与え、最終的には配合飼料のみを用いた。2023年11月8日まで中間育成を行い、外ヶ浜町三厩地区地先（三厩漁港）へ運搬・放流した。

結果と考察

1. ウスメバル稚魚の採集

採集できたウスメバル稚魚は、5月に8,950尾、6月に300尾の合計9,250尾であった。

2. 放流用種苗の育成

2022年6月2日から2023年2月6日までの249日間の間育成で合計9,000尾の放流用種苗を作出し、その生存率は97.3%だった（表1）。そのうち、6,000尾については前年に放流済みであり、残り3,000尾を継続飼育した。

継続飼育したウスメバル稚魚は、2023年11月9日に平均全長131.1mm（最小：120mm、最大：145mm）、平均体重36.9g（最小：27.5g、最大：44.5g）となった1歳魚935尾を三厩漁協へ運搬し、三厩沖水深40mの魚礁付近へ放流した（表2）。

表1. 放流用種苗の育成結果

収容 年月日	平均全長 (mm)	収容尾数 (尾)	終了 年月日	平均全長 (mm)	平均体重 (g)	尾数 (尾)	生残率 (%)
2022/6/2	24.7	9,250	2023/2/6	85.0	10.1	9,000 ※	97.3

※9,000尾のうち6,000尾は、2022年12月に三厩、2023年2月に小泊・下前に放流した

表 2. 継続飼育した放流用種苗の育成結果

継続開始 年月日	平均全長 (mm)	平均体重 (g)	収容尾数 (尾)	放流年月日	放流尾数 (尾)	放流場所	放流履歴	
							平均全長(mm)	平均体重(g)
							範囲	範囲
2023/2/6	85.0	10.1	3,000	2023/7/19	517	尻労	※詳細は、資源管理基礎調査を参照	
				2023/11/9	935	三厩冲 (水深40m)	131.1	36.9
				2024年放流用	1,000	(継続飼育)	120-145	27.5-44.5